

突き詰めて 突き詰めて 突き抜けろ ～誇れる明日のために～

第34代理事長 高梨 健太郎

☆基本方針

【～はじめに～】

浦安市はこれまで右肩上がり発展を遂げており、人口上昇率・財政力指数等、全国的にも誇れるものでしたが、2011年3月11日の東日本大震災を境に、多くの課題を抱えたまちとなりました。地盤の液状化に始まった震災の影響もあり、市制はじまって以来の大幅な人口減少、それに伴う地域経済の低迷は特に深刻な問題となっています。また震災直後に学んだ、有事の際に必要な地域コミュニティのつながりの大切さや、共助の精神の大切さ、自ら判断して行動する必要性等も、時間が経つにつれ風化しているのは否めません。そして以前からの課題である市政に対する他者依存や無関心は、年々増加傾向にあると考えます。私たち公益社団法人浦安青年会議所は、これらの問題に向かい合い、未来を見据え、解決に向けた前衛的な運動を展開していかねばなりません。

【すべては利他の心から】

地域社会のつながりや共助の精神を醸成する重要なキーワードは、利他の心です。他者の事を重んじ他者の為に行動するその心は、近年関心が高まってきていましたが、注目されるようになったきっかけは東日本大震災ではないでしょうか。被災地では当時物資が不足して、困窮していたにもかかわらず、被災者の皆さんは不平・不満を言う前に、ボランティアや自衛隊、警察、消防の隊員たちに感謝の言葉を伝え、悪夢のような現実を前にしても、人間性と礼節を失わなかったそうです。秩序を守って忍耐強く行動するその姿、そして世界中から称賛されたとの報道や記述に触れたとき、私も日本人の一人として、心から誇らしく思いました。浦安で東北のような被害があった場合、同じような行動をとれるでしょうか。我がまち浦安は都市化が進み、価値観が多様化する中で、利他の心が失われつつあり地域社会のつながりや共助の精神が希薄化しています。そしてそのような希薄していくものがある一方で、現代社会が抱える問題のいじめや他者依存・無関心等が生み出されています。利他の心を持って生きること。そうすることで、人にも自然にも優しい社会が実現できるのです。そのためJAYCEEが自らも改めて利他の心を追求し、その大切さを浦安市民の一人ひとりに伝えていくべきなのです。

【自ら率先し行動できるリーダーの育成】

東日本大震災に於いて、浦安JCは震災翌日から災害支援活動を率先して行い、延べ8,629人ものボランティアの牽引役としての役割を担いました。その過程において次々と想定外の事態が発生し、平時の考え方が通用しない状況に陥りました。今まで活用できたマニュアルや、経験則では対応できない事態に遭遇したとき、いかに対応するか様々な判断を迫られます。今後も有事が起こる可能性は大いにあります。企業活動や組織運営においてもイレギュラーな事態に遭遇することもあるでしょう。一旦緩急あれば、それに対処するべく、暗中模索しながらも、最良の方法を見つけ、私たち自らがその場で判断できる「判断力」、そして行動に移せる「行動力」を学び、地域のリーダーとしての役割を担っていかなくてはなりませんか。

【共創による新生浦安】

2012年3月に策定された「浦安市復興計画」の中には『ピンチをチャンスに変え「新生浦安」に向けて躍動する事が浦安の目指す復興』と謳われています。震災を境に浦安は新たな創生期に入ったのです。創生期に入った浦安に一番大切な事は、人口上昇率や財政指数といった数字だけでなく、市民一人ひとりが市政に対する他者依存や無関心を無くし、まちづくりに参画する事です。そしてこの創生期となったまちに対し、私たち浦安JCも新たなまちづくりのかたちを提言していく必要があります。市民が主体的にまちづくりに参画するための一歩として、私たちの考えを明確にし、市民に呼びかけ、声を集め、行政に提言していくこと、市民と手を携えて新たなJC運動を展開していくことが、共創による新たなまちの創造につながるのです。

【一人ひとりに愛郷心を醸成】

都市化が進んだ我がまちは、急激な人口増加を背景に、従来あった愛郷心が失われつつあります。ふるさとはいわば「だから」であり慈しむべきものです。近い将来、浦安を担っていく青年世代の愛郷心の醸成は、このまちの将来を決めるといっても過言ではありません。愛郷心を醸成させるためには住んでいるだけでは足りず、地域社会を知る必要があります。我がまち浦安は、様々な文化・特色のある地域・多種多様な産業・個性溢れる人々が地域社会を形成しています。浦安に関わりや関心のある青年世代が、これらの地域社会と深く関わり、つながりを持たせることから始めることで、浦安の未来を描いていきます。

【想いを共有する推進力ある組織】

ひとつの方向に向かう仲間は、多くのことを共有します。その共有は単に時間や場所といったものだけに留まらず、JC運動を通して「喜び」「悲しみ」「楽しさ」「悔しさ」等を共有し、それらが一つの「想い」となれば、組織として力強い推進力を得ることができるとは思いますが、このような推進力を持つ組織は、どのような運動を展開しても決してぶれ

ることはなく、その運動を通して組織の意志が市民に必ず伝わっていきます。今年度はそのような力強い組織作りに取り組みます。

【戦略的な広報と会員拡大】

浦安JCが運動や事業を効果的に展開していくためには、様々な要素が必要ですが、その中でも「人」は重要で根幹をなすものです。しかしながら3年以内に卒業を迎えるメンバーを1/3以上抱えているという現実があります。我々がJC運動を継続し、これからもすばらしいまちづくり運動を地域に発信し続けるためには、会員の拡大は最重要課題なのです。会員を拡大するためには、絶え間ない運動とともに、広報が重要な役割を担ってきます。浦安JCの運動を定期的・継続的に市民に伝える事が重要であり、一時的や断片的な広報は、私たちの運動を伝えていくことにはなりません。一人でも多くの「仲間」を募るために、事業ごとに行っていた広報を見直し、一般市民にわかりやすい一貫性のある、定期的、継続的な広報を展開し、積極的な会員拡大に努めていきます。

【公益社団法人としての誇り】

公益社団法人は千葉県内に於いて、ましてや浦安市内には多くありません。公益社団法人格を選択した私たちには、公益性の追求や、財政の透明性、法令を遵守した組織運営等が求められます。その求めにしっかりと応えることができ始めて、公益社団法人としての法人格を維持できるのです。私たち浦安JCが名実共に真のまちづくりの担い手として世の中に認められるためにも、公益社団法人たる浦安JCに誇りを持ち、透明性を堅持し、規律ある組織を継続的に運営していかなければなりません。

【突き詰めて 突き詰めて 突き抜ける】

「大胆さと細心さをあわせ持つ」という言葉があります。大胆さと細心さは相矛盾しますが、この両極端をあわせ持つことによって初めて良いものができます。大胆さによって物事をダイナミックに進めることができると同時に、細心さによって緻密で繊細に計画を進めることで更に良いものができるのです。そして妥協することなく幾度も突き詰めていけば、つくったものは当然に誇れるものになり、様々な難関を突き抜ける事ができます。私たちが青年世代だからこそ「突き詰めて、突き詰めて、突き抜ける」覚悟と気概が必要なのです。

【誇れる明日のために】

この混沌とした時代を切り拓くため、私たちは貴重な今日という日を大切に活用しなくてはなりません。今日考えたことが、今日行ったことが明日の浦安を変えていくのです。

本年度、浦安青年会議所は明日の浦安を、今日より輝き、誇れる社会にするため、利他の心を携えて、幾度も突き詰め、爆発的な推進力によって突き抜ける運動を力強く展開していきます。

事業計画

- ・ 利他の心を醸成する研修事業の開催
- ・ 行動できるリーダーを育成する研修事業の開催
- ・ 政策提言を用いたまちづくり運動の展開
- ・ 愛郷心の醸成を目的としたまちづくり運動の展開
- ・ 想いを分かち合う会員交流事業の開催
- ・ 戦略的な広報活動の展開
- ・ 20名以上の会員拡大
- ・ 第25回わんぱく相撲浦安場所の開催
- ・ 公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力
- ・ 各出向者への積極的な支援・協力